土　岐　市　教　育　研　究　所
Ｔ　Ｅ　Ｌ　0572-54-1111　(内281)
Ｆ　Ａ　Ｘ　0572-55-6310
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　kyoiku@city.toki.lg.jp
所　報　Ｎｏ．５３８
発行責任者　所　長　橋　本　勇　治
発　行　日　平成３０年　３月　９日
題　字　山田　恭正　教育長

「スクスク」育つ土岐市の子

土岐市教育研究所長　　橋　本　勇　治

あっという間に年度末。今年度もまた、終わりの潔さや全うすることの大切さが強く意識される時期になりました。有終の美を飾り、跡を濁したりしないよう、誰もが評価と改善に勤しむ時でもあります。私も同様、土岐市の教育について振り返り、評価をしました。そして、その結果の総括から浮かんできた言葉が「『スクスク』育つ土岐市の子」です。大雑把で乱暴な表現に、異を唱える方々も多数いらっしゃることと思いますが、あえて批判や誤解を恐れず表現すればこうなります。つまり、「安定した土岐市の教育、充実した土岐市の教育が展開、具現できた１年だった」ということです。何よりも、子ども達の姿、先生方の姿勢がそれを物語っているととらえています。

唐突ですが、この言葉が導き出された主因は就学前教育にあると分析しています。もちろん小学校、中学校は、それぞれの段階で大きく貢献しています。しかし、その基盤である「『生きる力』の基礎」を培っている幼稚園や保育園、こども園での教育があってこそ、と考えているのです。

今年度も教育長訪問に同行し、全附属幼稚園に訪問させていただきました。小中学校教員（教諭としては全て中学校勤務）の私に、滅多にない貴い機会が与えられていることを感謝せずにはいられません。これまでもそうでしたが、訪問するたびに、新しい感動があり、自分が携わってきた「教育」に対する考え方や姿勢などを見直すきっかけとなっています。私自身、今年度もいくつか、実感をもって学びました。

○今後に生きる「学びの本質」を学んでいる。

子ども達が自分で決めて主体的に遊ぶことを大事にしながら、それを助ける教師の意図的な働きかけや仲間との関わりなどの人的環境、「遊び」に使用する物の準備などの物的環境、天候や季節などの自然環境等の構成を徹して行う。その結果、「夢中になって遊ぶ」姿を具現している。

○基盤となる「学習の習慣」、「生活の習慣」を身に付けている。

小学校との接続を強く意識した日々の意図的な指導の積み上げがなされている。小学校低学年レベルを超えた集団活動の落ち着きが随所に見られる。

○先生方の真摯な姿勢

何よりも「保育」に向かう献身的、誠実な姿勢に頭が下がる。教育長訪問対応中の園長等が中断して来客、電話対応しなければならない状況の中で、全職員が組織の一員として自分の役割を精一杯果たしている。

訪問中、常に頭の中をグルグルと回っていた「三つ子の魂百まで」、「雀百まで踊り忘れず」、「子どもは大人の父親」、「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」、「幼児期の子どもの１日は、大人一ヶ月分の価値がある」等の言葉を噛みしめていました。この拙文をお世話になった幼稚園の先生方に贈り、訪問のお礼とねぎらいの言葉、そしてエールとさせていただきます。

「What do you want？　小中合同授業
外国語活動・英語」
撮影者　濃南小学校
水野　浩庫　教頭

「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」の研修報告

道徳の教科化に向けて考えていきたいこと

土岐津中学校　北川　慎二

指導者養成研修で印象に残った新学習指導要領解説の言葉と、私が今実践している道徳教育・道徳科をＱ＆Ａ形式で紹介します。

Ｑ１「道徳教育をもっとダイナミックに教育活動の中に仕組みたいのですが…。」

解説には以下のようにあります。

> **学校における道徳教育は、特別の教科である道徳（道徳科）を要として、学校の教育活動全体を通じて行うものである。**

本校は６ステージです。各ステージに合言葉があり、それに基づいた各ステージの重点の内容項目があります。道徳科も各教育活動との関連性（特に特別活動）を図っています。例えば…

- ■第２ステージの合言葉「協力」
- ■道徳教育の重点内容項目「B(６)友情、信頼」
- ■核となる特別活動「宿泊体験学習」
- ■道徳科の教材「敏子と律子」B(６)友情、信頼

教科書会社の教材の配列はあくまで「例」です。各学校の教育活動と関連性をもたせて、道徳科の年間指導計画を作成するとよいでしょう。

Ｑ２「『考え、議論する道徳』をどのように仕組んでいけばよいのですか。心情を追求する発問しかいままでにやったことがないのですが…」

解説には以下のようにあります。

> **道徳科の学習指導を構想する際には、学級の実態、生徒の発達の段階、指導の内容や意図、教材の特質、他の教育活動との関連などに応じて柔軟な発想をもつことが大切である。**

これまで私たちが築いてきた道徳の授業を大切にしつつも、固定観念にとらわれたりワンパターンな授業をしたりすると、生徒も固くなり、「考え、議論する道徳」にはならなくなってしまいます。

心情追求のみでは自己理解まで達成しにくいでしょう。人間理解と価値理解で心情を追求したら、「そういう主人公をどう思う」と発問すると、深い価値理解に至れます。また、自分の経験と重ねられそうな内容項目や教材の場合「自分だったらどうするか」と発問すると、自己理解がしやすいです。しかし、価値理解が弱くなるため、「それでも〇〇しようとした主人公はどんな気持ちだったのだろう」と問うと、ぐっと価値理解が深まることがあります。「自分と重ねる発問・自分と離れる発問・自分に問いかける発問」を組み合わせていくと、展開前段が充実するのではないでしょうか。

Ｑ３「教師の説話は最後にしかしてはいけないのですか。また、絶対にしなければいけませんか。」

解説には以下のようにあります。

> **（道徳科の内容は…）教師と生徒が人間が人間としてのよりよい生き方を求め、共に考え、共に語り合い、その実行に努めるための共通の課題である。**

時には教材を読み聞かせた後に、「先生は自分の〇〇という経験から〇〇と思ったけど、みんなはどう思いますか。（どうしますか。）」と教師から問題提起をして、一緒になって話し合いを始めてもよいでしょう。また、感動的な資料だったら、教師の説話はせず、再度教材の言葉を読んだり、生徒の言葉を引用したりして、授業の余韻を味わってもよいでしょう。教師の説話が遠回しのお説教にならないようにしたいものです。

最後に…

道徳教育と道徳科を関連させ、地道に誠実に実践すれば、その効果は漢方薬のようにじわじわと児童生徒の成長に表れていきます。

> 新幹線は「こだま」→「ひかり」→「のぞみ」の順で速いと聞きました。つまり「音→光→人の心」という順番です。技術が進歩しても、人の心は大切であるということが分かります。やっぱり道徳は大切です。
>
> （私の学級の生徒の生活ノートより）

なにかと数字的な成果が求められやすい昨今ですが、形あるものに左右されすぎず、目に見えない道徳的価値も大切にする人間でありたいです。

（※私が本校の職員会議で提案した道徳関連の資料を共有フォルダ「各種研－道徳部会－H29」に入れてあります。ご自由に活用してください。）

「私の教育実践」

仲間とともに、よりよい自分を求め続ける子

肥田小学校　教諭　石丸　高綱

私は本年度、肥田小学校４年生の担任をしております。肥田小学校は、とても素直な子が多く思いやりのある温かい学校です。４年生担任として、子どもたちに主体性や社会性といった「仲間と協力し、自分の良さを発揮して、目標に向かって取り組む力」を身に付けさせたいと考えています。そのために、①「聴く・話す力」を中心とした学習習慣の確立、②仲間のよさや頑張りを認め合う小集団活動に取り組んできました。①については、「人の話を聴くということは、相手のことを大切にしていることである」という意味や値打ちを繰り返し説きました。また、聴く意識を育てるための「学習見届け週間」として、個人や学級の聴く姿について振り返り、仲間の話を聴こうとする姿のよさを学級に広めました。このことで、「仲間の意見を最後まで聴こう」とする心が育ってきました。また、②については、「よさ見つけ」の活動に小集団活動を仕組み、誰もが仲間のよさを認め合えるようにしました。このことで、「〇〇さんが頑張って挙手をしていたのでよかった。」「みんな算数の授業に集中していた。」など、どの子も仲間のよさや学級全体の頑張りを見つけることができました。しかしながら、課題もあります。課題は、聴く姿や「よさ見つけ」の活動が形だけになってしまうことがまだあることです。そこで、新しいステップを提示したり、意味や値打ちを語ったりして、心と心をつなぐよりよい人間関係を築いていきたいと思います。

私自身、まだまだ経験が浅いです。子どものよりよい成長を求め、諸先輩から学び、子どもたちとともに成長していきたいと思います。

「私の教育実践」

英語に対する苦手意識を改善するための授業実践

西陵中学校　教諭　西川　祐人

本校には、英語に対する苦手意識を抱いている生徒が多い。中でも単語が覚えらず、苦しんでいる生徒は多い。そこで、授業の帯活動で継続的に単語学習をすることに加え、音声に基づいた単語学習をすることで改善を目指した。

１　実践

（１）帯活動での単語学習

単語を一度覚えても継続できず忘れてしまうという悩みは多い。そこで、各単元で２５個の新出単語を選び出し、その単語を使い単元の初めはビンゴゲーム、後半になると２５問単語テストを繰り返し行い定着をねらった。さらに、長期休暇後にはその２５問テストを合わせて１００問テストを行った。

（２）音声に基づいた単語学習

英語を特に苦手とする生徒は、単語を覚えようとしても覚えられない状況にある。文字と音が結びついていないため、例えばblackのスペルを覚える際に、b（ブ）la（ラッ）ck（ク）ではなく、（ビー、エル、エー、シー、ケー）と覚えようとしているという姿があった。音声と文字が結びつきやすくなるように、ck（ク）、ea（イー）などの決まった読み方をするアルファベットの組み合わせに触れながら単語の導入を行った。

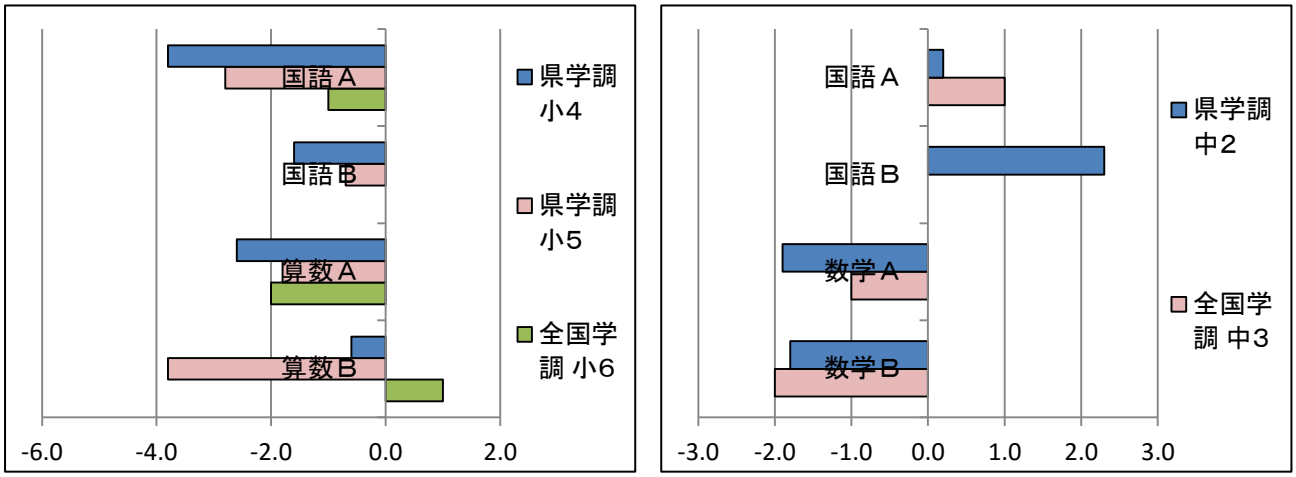
２　成果と課題

継続的に単語学習を行うことで、単語の定着率が上がった。しかし、成果が上がらない生徒もいる。今後も音声に基づいた単語学習を継続するとともに家庭での学習に対する価値づけを行うなど、学習意欲を向上させる手立てを工夫していきたい。

平成 29 年度　学力向上推進委員会　活動報告

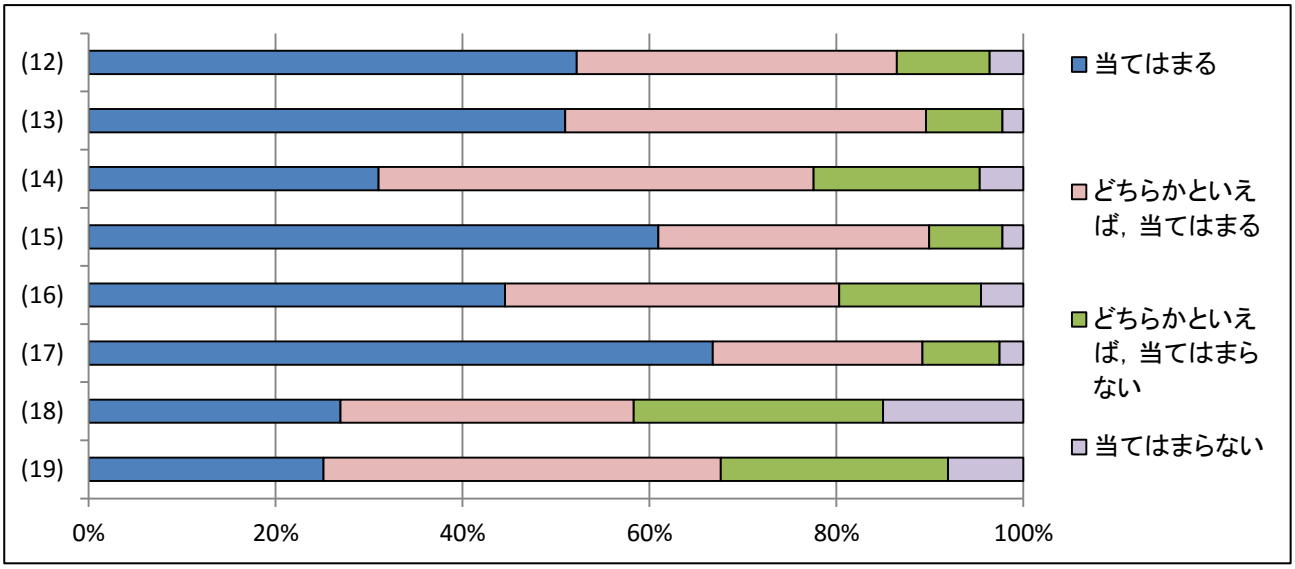
学力向上推進リーダー　久野　雄司

平成 29 年度　「全国学力・学習状況調査」,「岐阜県における児童生徒の学習状況調査」における土岐市と岐阜県との平均正答率の差（土岐市の平均正答率－岐阜県の平均正答率）



【図１】

平成 29 年度　「全国学力・学習状況調査」,「岐阜県における児童生徒の学習状況調査」における土岐市の児童生徒質問紙の回答状況（%）



※全国学調からは，県学調に相当する項目を取り出し，該当児童生徒数を合計して土岐市の割合を算出

＜質問項目＞

(12)授業では，自分の考えを発表する機会が与えられていたと思う。
(13)授業では，学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う。
(14)授業では，学級やグループの中で自分たちで課題を立てて，その解決に向けて情報を集め，話し合いながら整理して，発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。
(15)授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。
(16)授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。
(17)授業で扱うノートには，学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いていたと思う。
(18)学校の授業などで，自分の考えを他の人に説明したり，文章に書いたりすることは難しい。
(19)学級の友達との間で話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができている。

【図２】

今年度，学力向上推進委員会では，各校の全職員が，自校の実態はどうなっていて，課題は何なのか，そのために何をしていくのかを共通理解し，共通指導することができるような，より明確で，より実効性のある「指導改善プラン」にすることが，児童生徒の学力向上につながっていくと考え，「指導改善プラン」の改善を中心として活動してきました。

「指導改善プラン」の改善に向けて，大学との連携を行い，岐阜大学の益子教授から，「全国学力・学習状況調査」，「岐阜県における児童生徒の学習状況調査」の平均正答率だけでなく，児童生徒質問紙調査の結果からも児童生徒の実態を分析し，課題を明らかにしていくこと，到達目標を設定し，そのための具体的な方法を企画していくことをご指導いただきました。

ご指導をもとに，平成２９年度の「全国学力・学習状況調査」，「岐阜県における児童生徒の学習状況調査」の結果（【図1】，【図２】）から，平成３０年度の「土岐市　指導改善プラン」（案）を考えてみました。

平成３０年度「土岐市　指導改善プラン」（案）

＜実態と分析＞

【図１】より，「小６国語Ｂ，算数Ｂ」，「中２国語Ａ，国語Ｂ」，「中３国語Ａ，国語Ｂ」は岐阜県の平均正答率を上回っている。しかし，小学生は国語，算数とも，中学生は数学において下回っており，依然として，土岐市は全体的に岐阜県の平均正答率を下回っていることが分かる。

【図２】の(12)～(16)の項目は，教師の意図で向上する項目と言える。(12)，(13)，(15)，(16)の項目は「当てはまる」の割合が 40%，50%を超えており，私たちが，発表する機会や話し合い活動を意図的に授業に取り入れ，目標や課題を明確にして授業を行ってきたこと，振り返りの活動を授業の中に位置づけ，実施してきたことが分かる。

対して，(17)～(19)の項目は，児童生徒の認識変容で向上する項目と言える。(17)の項目では，「当てはまる」の割合が 60%を超えており，ノート指導が定着してきたことが分かる。しかし，(18)の項目は「当てはまる(項目の内容から「当てはまらない」)」の割合が 20%を下回り，(19)の項目は「当てはまる」の割合が 30%を下回っている。教師の意図と児童生徒の認識変容とには大きな差があることが分かる。

＜課題＞

〇発表の機会や話し合う活動は行われているが，考えを表す，説明する力はついていない。
〇振り返る活動はよく行われているが，考えの深まりや広がりには至っていない。

＜指導改善のポイント＞

考えの深まりや広がりを実感できる振り返りの場　～終末からの授業改善～

＜内容・方法＞

①振り返りの場で，できたこと，わかったことを振り返る
　・ペアで伝え合う　・ノートに記録する　・思考場面，自己の変容を加えて振り返る
②自分の考えをノートに整理し，思考を可視化する
　・自分の考えを整理する　・仲間の考えも加える　・思考の過程，変容を加えて整理する
③自分の考えを相手に伝える，説明する
　・ノートを使って　・ホワイトボードを使って　・実物投影機などの，ＩＣＴ機器を使って

＜検証方法＞

・全国学力・学習状況調査　児童質問紙　質問項目(18)，(19)に相当する項目
・「当てはまる」の割合　30%超

平成２９年度　教育実践論文審査講評

審査員長　濃南中学校長　齋木　孝明

土岐市の教育方針「子どもを大切にし、学ぶ楽しさのある授業を行い、『生きる力』を育む」、そして、その具現に向けた実践課題「学び手の側に立つ学習指導の実現」「仲間と関わり高め合う力の育成」のもと、明確な意図をもって日々の実践を重ねてくださったまとめを、教育実践論文として著してくださいました。

作成にあたっては苦労されたことも多かったと思いますが、書きまとめる過程で、自分の実践を一歩離れたところから繰り返し振り返ることによって、自分が気付かなかったよさや課題が明確になり、自分が求める教師像に一歩近づく契機になったことは確かではないかと思います。

では、本年度の応募論文の特徴等や審査を終えて感じたことについてまとめてみます。

１　応募の状況について

応募点数は小学校が１５点、中学校が１５点で総数は３０点でした。内訳は、一般の部の対象が５点、新人の部の対象が２５点でした。また、年代別では２０代が１７点、３０代が１０点、４０代が３点で、昨年度までと同様２０代の先生方の出品が多く、意欲の高さが感じられました。

また、本年度は、教科に関わる論文が全体の６７％、道徳や特別活動、学級経営といった領域の論文が３３％でした。昨年度に増して様々な角度から今日的な教育課題に切り込んで研究実践していただいたことになります。

２　教育実践論文の内容について

教師が基礎的基本的な知識技能を身に付くまで指導しきり、子どもが授業で思考力・判断力 ・表現力を発揮できる授業こそ、子どもにとって学ぶ楽しさのある授業と言えます。

今回応募いただいた教育実践論文は、児童生徒が学ぶ楽しさを味わえる授業の実現のためによりよい指導を求め、自ら工夫し続けた実践をまとめたものばかりでした。また、多くの作品から、限られた紙面の中で本当に必要なもののみを精選し、伝えていく内容をじっくり吟味して論述しようという思いや意図が読み手にしっかり伝わってきました。

そんな中で、審査をしながら心を打たれた実践は、子どもたちがよりよく育つことを切に願う熱意が指導法の工夫にそのまま現れ、その評価としての子どもの姿で伸びや変容が明確になっていた論文です。このような熱意こそが、教育に携わる者として最も大切なことであることをあらためて教えていただきました。

３　今後に向けて

論文が記録と大きく異なるのは仮説の有無かと思います。仮説の検証のためには、例えば理科系統の論文ならば、結果を導くための実験の数が多いほど信頼性と妥当性が得られます。教育実践論文は、性格上そのようにはなかなかいきませんが、論文と銘打つ以上、やはり実践の数が複数あることで信頼性と妥当性が高くなります。つまり、信頼性と妥当性の高い適切な指導を児童生徒に提供できるということになります。新人の部に応募する先生も一般の部に応募する先生も、「テーマ－研究内容－実践－成果と課題」に一貫性をもたせるとともに、仮説検証のための実践を複数行い、確かな指導に高めることで児童生徒に力をつけていただきたいと思います。

「教師の側から知識を授けるよりも、まず知識を求める動機を子どもたちがもつような学校が真の学校である。」と言われます。

土岐市の多くの先生方が一層指導力を高め、「こうすると自ら求めて伸びていく児童生徒に育ちますよ。」と言えるような教育実践論文が、各教科や領域などで数多く輩出されることを願っています。

平成２９年度　土岐市実践記録審査講評

土岐市教育研究所　主任　河合　広映

今年度より、土岐市実践記録の募集を始めさせていただきました。大量退職時代に突入し、教科指導や学級経営に熟達された先生方が退職され、そうした先生方の教育理念や教科指導方法、学級経営などを、先生方の実践を通して、指導や助言をいただいていたひと昔前とは、学校の状況も職員構成もかなり変わってきました。

実践記録の募集は、土岐市立の幼稚園、小学校，中学校教職員の日々の実践を、実践記録としてまとめることを通して、実践的指導力の向上を図ることと、各園・小中学校から応募のあった実践記録を閲覧することを通して、市内の若い先生方の識見を広げ、日々の実践に役立てることを目的としています。教師としての実践的指導力の向上を図ることだけではなく、普段なかなか交流することの少ない自校以外の先生方の実践を知る機会、見る機会としていただき、これからの学校教育を担っていく先生方に新たな気づきと教科や学級経営に対する熱意を感じ取っていただければ幸甚に思います。

１　応募の状況について

今回の募集は、学級通信や職員向け通信の「通信の部」と、教科学習の中で作成した掲示物や教科プリント、児童生徒ノート等の部との２部門で募集を行い、市内各小中学校の初任２年目の先生から校長先生まで幅広い年齢層の先生方から２１点の募集がありました。

２　実践記録の内容について

通信の部では、先生方が悩み抜いて掲げた通信のタイトルに込められた願いを、長期的な展望に立ち､今よりさらに価値ある個々としての生き方や学級としての凝集力をさらに高めるための方向付けなどが、先生方の温かな口調で語られていました。また、中には１ヶ月ごとの学級経営ビジョンを用紙に起こして、長期・中期・短期における学級のめざすべき姿をまとめた実践記録もありました。さらに、毎日、日々変わりゆく子どもたちの様子や子どもたちの思いが綴られた生活記録の言葉を取り上げ、それを認め、学級全体で共有していく通信も見られました。

教科学習に関する部門では、中学校の授業で生徒に配る教科プリントが毎時間分作成され、実践記録作品として数点出品されていました。こうしたプリントを活用することによって、子どもたちの主体的な学習とより深く思考する学習が成立し、教師が口数多く語らなくても、学びの方途や方向、そして、教科の本質に根ざした見方や考え方が養われていくのだと感じました。全体を通して、先生方の教育に対する熱い思いが実践記録を通してひしひしと伝わり､子どもたちのために研鑽を積み重ねている先生方の努力を感じさせていただきました。

３　今後に向けて

今回、子どもたちの学習ノートの質を学校全体として向上させたいという思いから「ノート展」を開催し、各学級から選ばれたノートの写しを掲示した作品が応募されていました。また、教科部で取り組んだ実践を記録としてまとめた作品応募もありました。このように、個人からの応募だけではなく、学校としての取組や学年での取組、教科部での取組なども今後、増えてくることを期待しています。

「心にひびく言葉」

“心にひびく短い言葉”

妻木小学校　教頭　溝口　喜久

本校の学校長は、子どもたちや私たち職員に対して、「いいね～」とよく言われる。その言葉を聞くと、誰もが笑顔になる。頑張る子ども、寄り添う職員をよく観て、タイムリーに短い言葉で認め励し、勇気づけて下さる。

もう一つ、短い言葉がある。連日、職員からは報告や相談があるが、第一声の殆どが、「分かった」であり、よく話を聞かれた後に、短い助言がある。また、積極的な具申には、「分かった」と後押しされる。私は、こうした“心にひびく短い言葉”が、自尊感情を育み、「笑顔」ある学校づくりの推進力になっていると考える。

職員も、子どもたちを認め励ます言葉が多い。特に自信のない子に対して、「それでいいよ。」と背中を押し、できるまで見届け、できたことを認め褒めていく指導にうれしさを感じる。

授業では、机間指導で一人一人のノートに〇をつけながら「よし」「いいよ」と短い言葉をかけ、励ます指導が子どもを伸ばしている。

また、行事や委員会等の活動を仕組む中で、子どもの発想や考えを「わかった。〇〇なんだね。」と傾聴し、その上で指導助言する指導方法を若手職員も学んでいる。

短い言葉による“肯定的な理解”と“小さな認め励ましの積み重ね”が、心にひびき続ける。そして、その言葉が、相互の信頼を育て、自信をもって何事にも挑戦できる人材を育てると信じている。

◇土岐市教育実践論文　審査結果

今年度は３０点の応募があり、審査会で下記のように入賞者が決まりました。

《優秀賞》稲山　竜太（泉中）〈保健体育〉

《優良賞》西垣　波瑠香（肥田小）〈体育〉　安藤　真（泉中）〈数学〉

《新人賞》大澤　拓也（土岐津小）〈算数〉　八槇　匠（土岐津小）〈国語〉

糸見　真（下石小）〈図工〉　塚本　真優（泉小）〈算数〉

《入　選》粟野　聖崇（土岐津小）〈理科〉　大野　篤司（土岐津小）〈外国語活動〉

藤滝　雄申（泉小）〈学級経営〉　井戸　勇太（肥田中）〈理科〉

日比野　友記（肥田中）〈栄養〉　渡辺　英弘（泉中）〈社会〉

◇土岐市実践記録　審査結果（今年度より実施）

《特 別 賞》加藤　一哉（肥田小）〈通信〉

《教育長賞》松崎　寿哉（駄知小）〈通信〉　江﨑　大三（西陵中）〈通信〉

小池　智明（泉中）　〈通信〉　橋本　壮平（濃南中）〈教材学習プリント集〉

安藤　亮（泉中）　〈教材学習プリント類〉

《教育長賞（学校賞）》下石小学級担任〈ノートの部〉

※実践記録入賞作品は、来年度の第１回市教研活動日に展示します。